

○山田 陽城^{1,2}

¹東京薬大薬, ²特定非営利活動法人 DNDi Japan

NTDs 患者は熱帯地域の途上国の貧困層に多いことから治療薬は市場性が低く、そのため既存の医薬品開発とは異なるシステムでの開発が必要である。DNDi はこのような問題を解決するために 2003 年に設立された非営利の国際医薬品開発パートナーシップ機関の 1 つ（本部；ジュネーブ）であり、世界中の産官学のパートナーと共に感染地域のニーズに合う NTDs 治療薬の研究開発を効率的に推進している。DNDi はアフリカ睡眠病、リーシュマニア症、シャーガス病などの NTDs 治療薬開発を核に、フィラリア症や WHO により新たに NTDs に指定された真菌性菌腫の治療薬開発も行っている。また感染地域のニーズに基づく C 型肝炎の治療法開発や、小児用 HIV 製剤の開発なども行われている。DNDi による治療薬開発は対象疾患ごとに世界各国の研究パートナーと、初期の候補化合物の探索からリード化合物の最適化、前臨床試験、基礎から臨床の橋渡し研究、感染地での臨床試験、実用化までを役割分担しながら実施されている。DNDi は NTDs に対する新薬の発見と開発を加速し且つコストも削減する新たな試みとして「創薬ブースター」コンソーシアムによる創薬研究も行っており、企業の壁を超えた画期的な創薬手法としてその成果が期待されている。また途上国で脅威となる抗生物質に対する多剤耐性菌とその拡散に対処するため、WHO と共に GARD パートナーシップを立ち上げ、その実施に向け検討が開始されている。